業界の持続的発展に向け前進を

東京金物卸商協同組合
理事長　野口栄一

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに令和7年の新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、平素より当組合の事業活動に対し多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、ウクライナ情勢に端を発した原材料やエネルギーの高騰、歴史的な円安によるコスト増加や、中東での緊迫情勢、さらには台湾問題など様々な国内外の問題が発生しました。そのような情勢下、経営者にとっては、人手不足や賃上げ対応、DX推進による経営効率化など課題の多い一年であったと感じております。

我が国の昨年第3四半期（7～9月）のGDP（速報値・実質）は前期比0・2%増、年率換算では0・9%増と個人消費の増加により少しずつ回復しています。しかしながら、内需の柱となる企業の設備投資は同0・2%減、民間住宅は0・1%減で共に第二四半期ぶりのマイナスでした。我々が指標とする新設住宅着工戸数では、2023年度は前年比4・6%減の81万9623戸で3年ぶりに減少しています。中でも持ち家（注文住宅）は前年比11・4%減の22万4352戸と大きく落ち込んでいます。その要因としては、住宅価格の高騰や建築資材や住宅設備の値上がりが挙げられますが、その背景は未だに続いているウクライナ情勢等最初にお話しした通りです。

経営者としては、これらの問題に対する政府の対応が求められるところですが、その政府も大きな転換点を迎えています。国内では新たに石破政権が誕生、米国では第二次トランプ政権発足が決まり、国内外の政治・経済に大きな変動が起きました。両首脳には大いに期待したいところですが、特に石破政権には株価の高騰だけに目を向けるのではなく、国民が景気を実感できるような真の経済成長を目指した舵取りを望みたいと思います。

このような厳しい情勢の中ではありますが、本年を業界全体の転換期と捉え、新たな可能性を見出しております。今こそ、技術革新や新興市場に目を向け、将来の成長へとつなげるための種をまく時期と捉えて変化に積極的に対応することが求められています。当業界においても、生産性向上や業務効率化が期待される今、AIやロボット技術の進展により新たな技術を柔軟に取り入れ、次なる飛躍に向けた準備を進め、市場ニーズに敏感に反応して新たな需要に対応して参ります。

今年の干支は「乙巳」（きのと・み）で、巳年にあたります。蛇は脱皮を繰り返して成長し続けることから、「再生」と「変化」の象徴とされているそうです。今年の干支にふさわしく、我々も現状に甘んじることなく、変化を恐れず、成長する蛇のように業界の持続的発展に向け前進を続けたいと思います。

本年も組合員の皆様と一丸となり、組合員同士の協力・協調の精神を大切にしつつ、業界全体の発展と持続可能な社会の実現に向けて尽力いたします。

結びにあたり、業界関係者皆様のご健康とますますのご繁栄を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

DIYの魅力を生活者へ普及し市場創造図って業界全体を拡大

日本DIY・ホームセンター協会
会長　稲葉敏幸

2025年の新春を迎え、謹んでご挨拶申しあげます。

昨年を振り返りますと、大企業を中心に春闘での大幅な賃金上昇はあったものの、それを上回る生活物資全般の価格高騰から、引続き暮らし向きは厳しい状況にあります。消費マインドも盛り上がりに欠く状況にあり、価格に対しては消費者のシビアな目が向けられております。

また、国内政治の不安定化や海外情勢の不透明化など、2025年は更に大きな社会・経済環境の変化に対応していくことが求められます。

当協会の主たる事業である昨年の「JAPAN DIY HOME ECENTER SHOW 2024」（会場：千葉県・幕張メッセ）は、第60回の節目の開催となり、前回開催より1ホール増の5ホールを使用し、期間中、台風による悪天候の影響はあったものの来場者数は前回を4千人ほど上回り、3日間合計で6万人強となりました。

この60回ショウでは、海外業界要人3名による世界のホームインプルーブメント市場の動向をはじめとする特別講演や、親子で楽しむフィールドアスレチック、DIYの楽しさ・魅力を体験するコーナーなど多彩に展開し、大変にぎやかなショウとなりました。

また、その他の協会事業についても、41回目となったDIYアドバイザー資格試験の実施、DIYこども工作教室の開催など順調に展開することができました。

企業においては、DXなどを活用した新たな事業構築や更なる経営の効率化、また、国際的な持続可能な開発目標SDGsへの取り組みを積極的に推進し、企業価値を高めることが重要かつ喫緊の課題となっております。更に、人口減少に歯止めがかからない我が国においては、高付加価値商品の開発・製造、その商品を海外市場へ展開することは、企業の成長拡大には欠かせないものと考えます。

DIY・ホームセンター業界に携わる企業にとっては、DIYの魅力やHOW TOを生活者へ普及し、市場創造を図ることが、業界全体を拡大していくために求められています。

激甚災害につながる大地震や記録的な集中豪雨など、甚大な自然災害が全国各地域で頻発している近年、日頃から減災への取り組み、生活再建時、生活物資や建築資材などを多種多様に取り揃える地域に寄り添うホームセンターは、生活インフラとしての役割が期待されており、迅速に対応する体制づくりが肝要であると考えます。

また、最近、凶悪な強盗・窃盗などの事件が多発しており、安心・安全な暮らしを希求する国民への防犯に資する情報提供や、高機能な防犯グッズの開発・提供なども期待されるところです。

ホームセンターにおける取扱商品は、住まいと暮らしに係わる広範に及んでおり、多くの関連する企業様にショウをはじめとする協会諸事業に参画いただき、皆様とともに、一層のDIY・ホームセンター業界の発展成長に向け取り組んでまいりたいと存じます。

今年一年が、日本経済が安定的に発展し、また活気あふれる豊かな社会生活となることを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

JPPMAマークの普及や安全な商品づくりの環境整備を

日本ペット用品工業会
会長　山本洋介

謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素より私ども日本ペット用品工業会の活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さてあらためてこの一年を振り返ってみますと、私どもペット産業にも大きな影響を与える多くの出来事があったように感じております。まずもって昨年元日に起こった能登半島大震災では、多くの業界関係各位に被災地へのご協力や、被災されたペットやそのご家族の皆様に対し温かいご支援をいただきましたことに、あらためまして御礼を申し上げます。

また経済面におきましては、昨年1月1ドル141円で始まった為替相場も、7月には一時1ドル160円を超え、ペット用品を含む様々な食料品や日用品が価格改定を余儀なくされ、原料高や輸送コストの高騰などもあり、皆さまの御会社におかれましても様々な工夫や企業努力を日々重ねられてこられた一年であったこととお察しいたします。

また我々ペット産業における最大の関心事としましては、動物愛護管理法において予定されている次期改正案の内容であり、動物取扱業者へのより一層の規制の強化や小動物や爬虫類にまで飼育環境への数値規制などが盛り込まれる話も聞こえており、関係省庁とも意見交換を重ね、業界関係者からはその動向が注視されているところであります。

そんな中でも私ども日本ペット用品工業会の第一の責務は、安全で安心なペット用品をペット愛好家の皆様にお届けすることだと常に考えております。近年では様々なペット用品が続々と各社から投入されることでペット産業全体が活況になるのはとてもよい傾向だと思いますが、残念ながら中には安全性が担保されていない粗悪なペット用品が海外から輸入される事例も増えつつあります。日本ペット用品工業会では、業界の自主基準に適合した適合品証を発行する『ペット用品統一表示ガイドライン』を制定しており、犬、猫、観賞魚、小鳥、小動物、昆虫、爬虫類といった7種類のペットカテゴリーごとに表示規定と表示例をまとめております。このガイドラインに準拠した表示がなされている商品に対しては「JPPMA統一表示適合品証（JPPMAマーク）」を発行しており、ペット愛好家の皆様に安心して購入できる製品の目印として役立てていただいております。今後もこのJPPMAマークの及を図ると共に、会員各社が安全性の高い商品を提供できる環境づくりを目指していきたいと考えております。

おかげ様をもちまして、昨今では業界内外からの「ペット用品統一表示ガイドライン」に対する関心度が高まり、当会への入会希望数も増え、会員企業も現在では115社と今も増えつつあります。

ペット用品のカテゴリー別に出荷金額を記載しております『ペット用品産業実態調査』も多くのペット関連企業様のご協力のもと、ペット産業界だけでなく経済産業省を始めとする関係省庁にもデータを提供し、活用いただいております。

さて皆様もご存知の通り、様々な要因により残念ながら日本における犬や猫の飼育頭数は本年度も減少が予測されています。その反面、ペット文化がすでに成熟しているといわれる欧米諸国では、犬や猫の飼育頭数はまだまだ増加傾向にあります。日本ではブリーダーが減ったからだとか、規制が厳しくなったからだとか、経済状態がよくないとか、外的原因を探るだけでは業界の発展には決してつながらないと考えております。やはり我々ペット産業人はこれから先を担う若い世代に、子供たちに、もっとペットを飼育する楽しさ、ペットと共に暮らす喜び、小さな命を大切にする経験を、もっと真剣に伝えていく事を考えなくてはならないのではないかと感じております。

私ども日本ペット用品工業会が共催しておりますインターペットも回数を重ねますます盛大となり、本年4月3日から6日までの4日間、東京ビッグサイトの東展示棟の全8ホールを使って開催する予定であり、本年で第15回目を数える事となりました。この日本最大級のペット産業イベントが単なるペット関連フェスティバルではなく、今後もっと様々なペットと共に暮らすことのすばらしさを伝えることができる、またこれからを担う子供たちがペットを飼育する機会を創出できるイベントに発展していく事にチャレンジして参りたいと考えております。

日本のペット産業の益々の発展のために、これからも皆様の温かいご支援とご協力を頂けますよう心から祈願いたしまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。